令和元年度第3回芽室町総合計画審議会(専門部会)　議事録(Aグループ)

令和元年8月9日（金）18:30～20:40

中央公民館2階図書資料室

出席委員（8名）

嶋野グループ長、片桐委員、木村委員、児玉委員、坂本委員、佐藤(渉)委員、谷口委員、

西村委員

欠席委員（1名）

髙橋(仁)委員

事務局・説明員

石田企画財政課長、上田主事

松浦学校教育課長、中田学校教育総務係長、一色学校教育係長、矢後給食係長

日下社会教育課長、藤澤図書館長、大石社会教育係長、大橋スポーツ振興係長

開会

事務局：本来であれば進行は嶋野グループ長にお願いするところであるが、遅れるとの連絡を受けているため、嶋野グループ長が来られるまで、西村委員に代理をお願いする。

委員：それでは、議事に入る。調査事項①「学校教育の充実」について事務局から説明をお願いする。

事務局より、資料に沿って説明。

委員：今の説明に対し、質問、意見等は無いか。

委員：学級編制について、少人数学級編制について教えてほしい。

学校教育係長：現在、小学校では全学年で35人編制を行っている。1年生は国の施策で35人編制、２年生は北海道の施策で35人編制、3～6年生は町の施策で35人編制としている。

委員：それに伴って指導助手も配置しているということか。

学校教育係長：H30は小中学校で10名の指導助手を採用している。芽室小は35人以下学級編制のための指導助手が2人、ティームティーチング（以下TT）のための指導助手が３人の計５人、芽室西小は35人以下学級編制のための指導助手が1人、TTのための指導助手が2人の計3人、中学校においては芽室中と芽室西中に1人ずつTTのための指導助手を配置している。

委員：指標①は89.4％だが、不登校などの学校に来てない人の分は入っているのか。

学校教育課長：保護者アンケートの結果で、保護者の評価に基づいているもの。項目も学校により別々で、各学校のものを積み上げて数値化したものとなる。

委員：民生委員も入っての学校訪問がある。そのとき、中学校に不登校がいると聞いた。

コミュニティスクールなど、情報提供含め地域との連携は必要だろう。全ての人に知ってもらうことはないが、学校に関して評価の項目が少ない。いじめや虐待については、町民も気にしている。そこに触れていない。何かの形で示す必要はないのか。

学校教育課長：第5期総合計画では、各施策で評価項目も数は2～3程度で統一している。全道と比較できるものとして、授業の内容が分かる児童等の指標を設置した。全道と比べて本町はどうなのか、という見方で考えている。全国は大体85％くらいで、90％は目標として下げずに指標は変えていない。

委員：指標ではない部分で、ふれる必要はないのかという意見である。

学校教育課長：いじめについては、要保護児童対策協議会等でも認知件数等について情報提供している。

委員：学校訪問とか組織作りとか、一体どんな役割をするのか。

学校教育総務係長：４月からコミュニティスクールが始まっている。地域も関わって学校運営するというもの。町内会長や有識者などが入る。各学校に運営協議会が設置され、地域と学校と教育委員会とで連携して学校運営していく。運営していくのに地域のどういう人たち、ボランティアなどに協力してもらうかなどは、それぞれの学校運営協議会で協議していく。今年度、各学校で内容を熟議・検討し取組む。

委員：総合計画には何か書いてあるのか。

学校教育課長：学校運営協議会については、P79に記載がある。学校現場で委員に集まってもらって熟議する。地域学校協働活動はP83(2)に記載されている。

委員：いじめとか不登校とかはマネジメントシートでは見えてこない。話し合い出来る場はあるが、マネジメントシートでは触れないようになっているのか。情報共有とかはどうしているのか。

学校教育課長：施策評価では載っていない。教育委員会の計画には別途定めているものがあるが、全国と全道だと、教育振興基本計画内に置いていじめに対する想いとか、子どもが学校に絶対に行けない割合がどうなのか等を含めて計画を定めている。いじめはあってはならないことで、指標にすると「ある」ことが前提となってしまう。ないことが当然と考え、指標にはしていない。

委員：民生委員をやっている。子育て部門と話したら、学教と連携して対応していると聞いたことある。成果指標にはないが、行政も対応していると聞いて安心している。

学校教育係長：個別のケースなので、成果を表すものとはしてない。何件か聞かれれば答えることはできる。公表もしている。

委員：給食の時間が中学校は時間短いと聞いた。5分、10分とかだって時もあると聞いた。きちんと食事をとれる時間は確保されているのだろうか。

学校教育係長：時間割は学校計画に基づき、学校長が決めるもので、学校によって違う。時間割上、給食の時間は取っているように思うが、メニューによって準備に時間が取られるなど、確かに実食の時間が足りない日もあるとは思っている。

委員：芽小の水曜日は時間割がすごいハードだと思う。

学校教育係長：授業と授業の間の準備時間を減らしていると聞いている。多少、急ぐ部分があることはこちらも感じてはいる。

委員：先生の会議に合わせていて、ハードな時間割になっている。

学校教育係長：確かに子どもたちも大変忙しい時間割にはなっているが、掃除の時間を削るなどで、給食の時間は減らしていない。必要な授業時数の確保などを踏まえ、芽小が判断しての時間割になっている。

委員：指標には出て来ていないが、学校教育的にも気にしてほしい。

委員：地元の食材の割合はどの程度か。

給食係長：芽室産は大体80％。

グループ長：それでは、評価に入りたい。評価について何か意見はないか。

委員：Cで良いのではないか。

グループ長：それでは、「C(策定時と比較して前進した)」と評価する。

グループ長：続いて、②「生涯学習の推進」について事務局から説明をお願いする。

事務局より、資料に沿って説明。

委員：今の説明に対し、質問、意見等は無いか。

委員：柏樹学園は入園者は減っているのか。

社会教育係長：一昨年から昨年にかけては20人減、昨年に比べては14人減となっており、現在は189人。

委員：老人の団体は減っていく。今後に向けての課題などはあるか。

社会教育課長：65歳以上が対象だが、加入している人は75歳以上がほとんどである。プログラム的なこともあり、農村部の人の足の確保も課題。足が確保できない農村部については、農村3地域に分けてバス運行する取組をする。以後の対策についても考えていく。

委員：コミュニティスクールは社会教育課では西子どもセンター等との連携的な事業などは検討しているか。

社会教育課長：4月からコミュニティスクールを導入している。学校課題がどういうものか、10月以降に学校運営協議会等と話し合いを進めていく。学校区からそれぞれの課題に対して、地域がどういう手伝いが出来るのか。放課後の居場所づくり等も整理して、子どもセンターなどを活用場所にしながらということも考えて新な取組をしていく。地域の方々は近くの人だけじゃなく、団体活動しているひとからの支援も頂けるとありがたい。

委員：図書館について、貸出冊数は載っているが、来館者の減少についてはどのくらいか。

図書館長：平成29年度で47,960人。H19のピークから比べて、7～6千人くらいの減となる。

委員：来館者と言うのは借りた人か。

図書館長：借りた人と、図書館主催のイベントに参加した人の人数。

委員：デジタル化が進んでいる。必要な情報はネットなどで取れるので、図書館で本を借りる人は活字が好きな人だろう。目標19万冊に対して、実績がなかなか伸びないのはITの影響もあるかと思う。時代の流れだから仕方ないのか、活字に対して興味持てるようにしていくのか。今後も減少していく現状は寂しい。働きかけなど考えてほしい。レーザーディスクを見るコーナーも、昔は新しく感じたが今は古くなっている。各家庭でネット配信やTSUTAYAなどがある中で、図書館でわざわざ見るニーズがどこまであるのか。減少しているのであれば、もっと文化的なことに使うこともありかなと思う。

図書館長：視聴覚コーナーと呼びかけについてだが、解決策は検討しており、図書館祭りもそのひとつである。電子媒体も活用しながら、読書振興を進めている。ガチャガチャを使って子どもたちにゲーム感覚で本借りてもらうとか、歴史講座の開催などを行っている。図書の貸し出しだけではなく、色々なことをやっているということに目を向けてもらいたい。視聴覚コーナーは、1時期かなり利用率が落ちている時もあった。以前は図書館内での視聴のみに限定されているものが多かったが、H18からは著作権をクリアして自宅に持ち帰って見られるものが増えたため、コーナーで見る人は減っている。最近は孫を連れた祖父母や、障害のある方とかのニーズ多い。以前ほど借りられないというよりは、別のニーズは高まっている。

委員：室内が暑い。図書館の空調もそうだが、公民館もホールと講堂のみしかエアコンがついていない。空調について、和室などは高齢者とか、託児とかでも使う。今後考えてほしい。

社会教育課長：空調については昔からの気候も変わっている。学校も整備されていない。健康の面を見ても全国的に大きな問題になっている。今すぐにとはならないが、整備計画は全体として考えていかないといけない。

委員：新庁舎は環境改善されるのか。

企画財政課長：ヒートポンプがつく予定である。

委員：成人教育事業は具体的にはどのようなことをしていたのか。

社会教育係長：H29年度は参加者に何をやりたいか考えてもらおうと思ったが、人が集まらない。過去にやった方々に集まってもらって、仲間増やしていくようにできないのかと考えている。男女は関係なく、シニアライフカレッジの方を中心に考えている。

グループ長：それでは評価に入る。評価に関して意見はあるか。

委員：「C」で良い。

グループ長：「C」という意見が出たが、いかがか。

委員：（異議なし）

グループ長：それでは、「C(策定時と比較して前進した)」と評価する。

グループ長：次に③「青少年の健全育成」について事務局から説明をお願いする。

事務局より、資料に沿って説明。

グループ長：今の説明に対し、質問、意見等は無いか。

委員：成果指標にある「基本的なルール」とは？3．施策の達成状況②で目標は達成できたとなっている。社会教育の活動は多岐にわたる。スマホとかゲームとか、町としても各関係機関に啓発してほしい。家庭だけでは問題は治まらない。ネットを使う年齢の低年齢化とか、使う時間も各家庭による。友人関係にも影響する。　深刻な問題となっている。取組強化を図るとなっているが、家庭だけでは難しい。地域で真剣に取り組まないといけない。子どもがゲーム中毒で入院とかも聞く。自分が考えられるように、親も学べるような取組が出来ればと思うが。

社会教育課長：教育委員が学校訪問をし、生徒と意見交換する。親子のルール宣言はH29に策定し、啓発している。毎年春に配ったり、中学校で教育委員と意見交換した。ほとんどの生徒が持っている。使いかたなどについて、家庭でルールを作っているか聞いた。生徒会中心に学校で協議したら7～8割はルールを作っているみたいだが、本当に中毒と感じるひとがいるか、というのもいるようであった。基本的に考え方は示せるがルールは家庭で決めてもらわないといけない。講演会とかはどんどん周知できるよう取組を進めるしかない。三中学校に行ったときに聞き取りしていく。ほとんどの生徒が問題意識も持っている。行政としてどういう支援がいるのか考えていく。

委員：53P、宣言内容について意見交換する機会があったとあるが、子どもたちは宣言によって意識は変わったのか。また、そのときどんな話がされているのか。

社会教育課長：意見交換の内容を教育委員との意見交換の中で発表してくれたが、まだ今回しかしていないので、昨年とどう変わったか、同じ質問を来年聞いてみたい。

委員：親もどんなふうに対応したらいいかわからない。子どもの方が知識が上だったりする。親が費用は負担しているので、その間は親が具体的にルールを示さないといけない。具体的こういうことやっている学習会とか、親向けの広報とかが必要かと思う。子どもにももちろんいうが、普及させるためにはもっと具体的に示すこと必要ではないか。

社会教育課長：青少協とPTAとで連携して、啓発活動も始めている。団体の中でも議論して、何が出来るかは検討していきたい。

委員：３．達成状況で、達成理由として記載されている取組は参加者が限られるもの。

全体的な子供というよりは一部の子どもで、たとえ広く募集していても狭い範囲での参加に限られている。根拠としては、もっと違う理由づけが必要ではないかと思う。かちまいで、風の子めむろの子がプログラミングで全国を目指すとあったが、使用されているソフトは依存度が高い危険なゲームの一つ。委託しているにしても、町のお金が使われているし、小さな子もいる。取組自体は良いかもしれないが、ネットとどう向き合うのか、町として指導していかなければならない部分かと思う。

社会教育課長：指標の意識調査が根拠となっている。小中学生と謳っていて、それを対象とした事業を行っている。そのため、入り口を広くしており、それ自体が評価に繋がっているかと思う。社会教育事業全般を評価してもらえたかと考えている。風の子めむろについては、社会教育課として事業に直接携わってはいないが、子育て部門とも協議して取組を進めたい。

委員：ネットの関係は使用する子どもの低年齢化は進んでいる。南小など農村部はネット環境が良くないので、町中とは違うかもしれないが、ゲームも同じ。時間を決めてはいるが、なかなか守れない。そういう子も増えている。実際に町民サイドから見ると、「前進した」くらいな気がする。

委員：担当は色々やっているが、地域が追い付いていけてない感じか。

委員：ネットの部分は、健全育成のウェイトも多いと思う。低年齢化もそうだが、小学生もゲームする割合は多い。ゲーム機でネットもできる。ITの進化するスピードは早い。親も行政もしっかり対応していかないといけない。期待を込めてCか、Bという判断になるかと思うが、どうだろうか。

委員：町ではこういう取組をやっていて、今後どうなるのかは、次年度の評価で見るということで、今回の評価としては、行政としてやるべきことはやっているということでBで良いと思う。

グループ長：それでは評価に入る。「B」という意見があるが、いかがか。

委員：（異議なし）

グループ長：それでは、「B(策定時と比較して大きく前進した)」と評価する。

グループ長：続いて、④「地域文化の振興」について事務局から説明をお願いする。

事務局より、資料に沿って説明。

グループ長：今の説明に対し、質問、意見等は無いか。

委員：指標②は、文化協会の加入と同数だがそれとは違うのか。

社会教育係長：町の人が参加できる、町の主催事業が16ということなので、文化協会とは違う。

委員：これは、毎年違うことをしていてたまたま同数なのか、毎年大体同じことをしているということか。

社会教育係長：毎年同様の取組をしており、それも課題として認識している。

委員：文化協会の団体数の根拠は。

社会教育係長：町民文化展の件数を拾っている。町民活動の中の文化活動も5期総は含めている。町民活動支援センターに登録している団体でもやっている人は多い。

委員：文化協会を広げていこうとか、団体を増やそうとか、今後の展望はあるか。

社会教育課長：文化協会はそれぞれで取り組んでいる。減少傾向にある。会員も減って、少人数や個人単位で活動を行うひとが多い。現在、公民館利用している小集団にも文化協会としても勧誘はしている。活動も多様化している。文化協会に入って、活動はどういうことができるのかとか、整理が足りていない。文化協会とは話していくが、これまでと同様では厳しいと感じる。文化協会に入るメリットは、活動PRにもつながるということが顕著でないと難しいと思う。

委員：文化協会に入っていると施設使用料が免除になるなどの制度はないか。入っていていいことは？

社会教育課長：活動される人がやりがいを感じるという部分だと思う。発表会等もあり、活動充実が一番のメリットだろうか。課題としては、使用料の問題。たとえば発表会を団体が一緒にやるときは減免できないかなど。公民館だけではなく町の施設全体の使用料について、5年くらいで検討していく。

委員：ねんりんの使い方について。郷土史研究に入るかと思うが、場所が少し遠い。なかなか日頃触れない。イベントもあるが、郷土史からは離れた工作だったりする。町中からねんりんにつなぐような、町中でこういうことして、ねんりんでの活動につながる、みたいに触れられる機会あったらいいかと思う。

社会教育課長：ねんりんと町中を線でつなぐ発想は持っていなかったが、歴史探訪会から歴史マップを作っては、などアイデアをもらっている。どういう風に表現するとわかりやすいかなど、講座とかも含めて検討している。繋ぐところまで行くかわからないが、歴史をわかってもらうような活動をして、それをどう活用するかでねんりんで体験できるとかに繋がればいいが、今はそこまではアイデアはない。

委員：最近、スポーツ関連の取組は結構華やかに感じる。文化系は華やかさは少し足りないが、文化事業も同じくらい大切。子どもたちの中にも、文化系の方が得意な子もいる。このまま取り組んでいってもらいたい。

社会教育課長：文化活動もスポーツと同じように考えている。

グループ長：それでは、評価に入りたい。評価について何か意見はないか。

委員：「C」で良いのではないか。

グループ長：「C」という意見が出たが、他に意見はあるか。

委員：（意見なし）

グループ長：それでは、「C(策定時と比較して前進した)」と評価する。

グループ長：続いて、⑤「スポーツしやすい環境づくり」について事務局から説明をお願いする。

事務局より、資料に沿って説明。

グループ長：今の説明に対し、質問、意見等は無いか。

委員：協力隊も含め、民間との連携した事業等について聞きたい。

社会教育課長：民間企業との連携では、スカイアースと日ハムとの連携協定等がある。昨年8月にスカイアースとスポーツ推進などについての包括的連携協定を締結した。期限は無く、人材登用について協力するということで、協力隊制度で　チームのキャプテンを採用し一緒に仕事をしている。すべての少年団を回ってもらって、行政として何が出来るか、また民間のネットワークを使って何が出来るか考えていく。パートナー協定は5月に日ハムと締結。スポーツ振興、観光振興、健康づくりの３つを軸に協力し合って事業を進める。日ハムから観戦チケットをもらって、ツアー実施をしている。今後、野球教室開催とか、栄養講座なども進めていきたい。日ハムは3年間の協定期間であるため、計画的に事業を進めたい。スポーツ振興に寄与できるよう、有効に取り組む。

委員：前から思っていたが、芽室町はゲートボール発祥の地で、大体そういう土地では小さいころから携わっていたりというのが多いが、芽室ではあまりない。小学校のうちから触れる機会とかがあっても良いのではないか。ゲートボールの競技人口は減っているのもわかる。何か新たな考え方をしないと、発祥地というだけで終わってしまうのではないか。

社会教育課長：ゲートボールはどうしてもシニアのイメージがある。そもそもは子ども向けのスポーツとして始まったもの、子どもたち向けにしていかないといけない。H28年度からは、総合学習の時間でゲートボール体験をさせている。それだけでいいとは思わないが、社会教育課としても、勉強機会にゲートボールをするなど少しずつ取り組む。幼いころから触れる機会を増やすよう取り組む。まだ工夫の余地はある。方向としては子どもたち向けにと取組を進めている。

委員：2つ意見がある。1つめ、シニア層では卓球が人気で、気軽にできる環境が欲しいという声がある。ふれあい交流館も解体されてしまうので、場所も変わっていくだろうが、そういうニーズがある。土足で行ってパッとできるみたいな。2つめ、地域活動と少年団の両立についてだが、選択肢にはなっているが地域活動とのバランスが難しい。少年団は日曜日は一律に休みとか、それで地域活動や友達と遊ぶとかしないと少年団の比率が大きいのではないか。少年団はいい取組であるが、それ以外の時間が減っている。社会教育的にはどう感じているのか。

社会教育課長：卓球の話については、スポーツ施設は総合体育館になる。ふれあい交流館は、　健康づくりも含め、取り壊した後はどこに機能持たせるか検討している。西コミセンとかは上手く使われている。うまく誘導できればと思うので、参考にしたい。少年団は、3、4年生からのものとか1、2年生からなどがある。地域活動への参加が難しいものもあると思う。少年団活動を縮小するというよりは、地域活動に参加してもらえるように仕向ける方向に持っていきたい。子ども会の活動も減っているが　夏フェスで子ども会を活動を一緒にやったりしている。複数の団体と取り組んでいきたいと考えてはいる。今後、子どもが小さいうちに身近な地域に参加できるかできないかってのは大きな問題となっていく。機会は確保したい。

委員：去年秋に研修を受け、認定指導員になった。少年団活動の中には、地域活動にも取り組むということが謳われている。スポーツだけになってしまいがちだが、少年団の目的にもなっている。地域活動とか、異世代交流は主旨になってることを発信して、地域との活動も促してみたりできるといいと思う。

委員：温水プールのアンケート結果は広報とかに載っているか。ぜひ見たい。

スポーツ振興係長：昨年策定した町営水泳プール建替基本構想にアンケート結果を掲載している。町のホームページの教育委員会のバナーから見られる。施設を利用するひとのほか、ランダムに町民等から回答してもらった。一般でも見られる。

グループ長：それでは評価に入る。評価について意見はあるか。

委員：「C」で良いと思う。

グループ長：「C」という意見が出たが、他に意見はあるか。

委員：（意見なし）

グループ長：それでは、「C(策定時と比較して前進した)」と評価する。最後に、⑥「国際・地域間交流の推進」について事務局から説明をお願いする。

事務局より、資料に沿って説明。

グループ長：今の説明に対し、質問、意見等は無いか。

委員：国際交流で、トレーシーは子どもがこちらから行ったり来たりと、ずっと何年も変わってないが、人数を増やすとか推進していくことは何か考えているか。

企画財政課長：現在は人数増などが考えていない。トレーシーは現在でも倍率が高い。検討材料かと思う。

委員：揖斐川は希望者は全員行けるのか。

企画財政課長：倍率はそんなに高くない。揖斐川から芽室への希望は多いようである。

委員：帯広市内には民間企業に東南アジアからの研修生が企業に入って働くことも増えている。芽室町内では、外国の方の就労などはどうなのか。

企画財政課長：把握はしていない。中国とかベトナムから、農家に入ってきているのは聞いている。工業団地では聞いていない。

委員：現地のひとは交流を図りたがっている。トレーシーなど、決まった都市だけではなく、芽室にいる外国人がいるのなら、その人たちを集めた交流などができれば国際交流の機会にもなるかと思う。

委員：幼稚園とかに来てもらっても、文化の交流とかに繋がる。

企画財政課長：そのとおりだと思う。

委員：広尾との提携は、災害時に派遣で来てもらったりした。その他では、氷灯夜で物産販売したりしているのは知っているが、他の取組はあるか。

企画財政課長：駅前にサンタランドツリーを設置しており、毎年点灯している。サンタメールも、４歳児を対象に送っている。広尾との交流もマンネリ化しているので、強化はしたい。

委員：広尾に行った際も、特に芽室町との交流がわかるものがなかったので姉妹都市提携をしている意識があまりなかった。たとえば、芽室の人が広尾で使える何かクーポンがあったりとか、そういうものがあるとアピールにもなるのではないか。

企画財政課長：現状ではアイデアはなかったが、検討したい。民間同士の交流も難しい面はある。

グループ長：それでは評価に入る。評価について意見はあるか。

委員：「C」で良いと思う。

グループ長：「C」という意見が出たが、他に意見はあるか。

委員：（意見なし）

グループ長：それでは、「C(策定時と比較して前進した)」と評価する。最後に、「その他」として今後のスケジュールについて事務局から説明をお願いします。

事務局：次回は８月１９日（月）、１８時３０分からめむろーどにて開催する。Aグループは２階セミナー室となるので、お間違いのないよう、出席のほどどうぞお願いします。

グループ長：ただ今の説明、または全体を通して質問などはないか。

委員：(なし)

グループ長：なければ、これで本日の専門部会を終わります。お疲れさまでした。

(20:40　閉会)